

# 仮設入居者の爪美しく

## 尚綱大生 大津町訪問



爪の手入れを受ける仮設住宅の入居者(右)。左の2人は尚綱大のボランティア=25日、大津町室

25日、尚綱大の学生12人が、大津町の仮設住宅で、被災者らの爪の手入れ

や手のマッサージュのボランティア活動に取り組んだ。

文化言語学部現代コミュニケーションの1、2年生で、手のケアを通してコミュニケーションを学ぶ授業の一環。20日に続き2回目。資生堂の協力で、ケアの方法を事前に学んだという。

この日は、同町岩坂と南出口の仮設住宅2カ所にある集会所で活動。学生たちは入居する女性約30人の手を丁寧にマッサージュして、爪にマニキュアを塗っ

入居者たちは、指先を見つめ「夢のようにきれい」「今日は家事をしないわ」などと笑顔で話していた。南出口の主婦(75)は「地震以来、一度もマニキュアを塗っていなかった。心まで笑顔になります」と喜んだ。

近くに住む同大2年の松本祥さんは「地元を元気づけたかったけれど、私たちも力をもたせたい」と話した。

(林田賢一郎)